

大豆新品種「トモユタカ」(だいず東北92号)の特性

番 場 宏 治 ・ 高 橋 信 夫* ・ 岡 部 昭 典

(東北農業試験場・*長野県中信農業試験場)

Characteristics of Tomoyutaka (Daizu Tohoku 92), a New Soybean Variety

Hiroharu BANBA, Nobuo TAKAHASI* and Akinori OKABE

(Tohoku National Agricultural Experiment Station・
*Nagano Chushin Agricultural Experiment Station)

1 は じ め に

トモユタカは、1976年に東北農業試験場刈和野試験地において、早生のダイズモザイクウイルス (SMV) 抵抗性極強、ダイズシストセンチュウ抵抗性、良質及び多収を育種目標として、早生でシストセンチュウ抵抗性の東北52号を母とし、晩生の早でSMV抵抗性極強、シストセンチュウ抵抗性の刈系102号を父として人工交配を行い、以後選抜・固定を図ってきたものである。1984年に刈系253号、

1986年に東北92号の系統名を付し、以後関係機関において特性検定試験及び地域適応性検定試験に供してきた。1990年6月にトモユタカ(だいず農林92号)と命名され、農林水産省登録品種となった。奨励品種採用県は宮城県と山形県である。

2 育成地における試験成績

普通畑標準播(以下標準播と略す)と普通畑晩播(以下晩播と略す)の試験成績を表1上段に示した。

表1 育成地並びに奨励品種採用県における試験成績

試験場所	試験条件	品 種 名	開 花 期 (月.日)	成 熟 期 (月.日)	主 茎 長 (cm)	分 枝 数 (本)	倒 伏 程 度	収量(kg/a)		対 照 比 (%)	百 粒 重 (%)	障 害 粒 程 度			品 質	試 験 年 次
								全 重	子 実 重			紫 斑	褐 斑	裂 皮		
育 成 地	標 播	トモユタカ	7.29	10. 2	60	4.5	微	45.5	25.9	107	24.2	少	無	微	中上	昭和59
		ライデン	7.30	10. 3	74	4.8	少	45.7	24.2	100	24.3	中	無	微	中中	～
		シロセンナリ	8. 4	10.11	77	2.1	微	46.6	24.5	101	24.7	少	微	微	中上	平成1
	晩 播	トモユタカ	8.14	10.16	44	2.8	無	33.0	20.7	105	24.2	少	無	微	中上	昭和59
		ライデン	8.14	10.17	53	2.5	微	33.3	19.7	100	24.0	中	無	微	中中	～
		シロセンナリ	8.17	10.20	49	1.7	無	33.2	21.2	108	22.6	少	微	微	中上	平成1
宮 城 農 業 セ	標 播	トモユタカ	8. 2	10. 9	76	5.9	中	58.8	27.4	109	26.8	微	少	微	中上	昭和61
		タンレイ	8. 5	10.19	94	5.6	少	64.7	25.1	100	29.5	微	少	微	中中	～
		コケシジロ	8. 3	10.15	91	5.7	多	65.9	29.2	116	27.3	微	微	微	中中	平成1
	晩 播	トモユタカ	8.12	10.19	65	3.7	無	46.1	23.4	115	24.2	無	微	無	上下	昭和63
		タンレイ	8.18	10.21	62	3.2	無	43.7	20.3	100	25.2	微	微	微	中上	～
		コケシジロ	8.15	10.21	67	3.7	無	45.2	20.5	101	25.0	微	微	微	中上	平成1
山 形 農 業 試	標 播	トモユタカ	7.27	10. 4	60	6.7	中	60.5	34.5	104	28.1	微	微	少	中下	昭和61
		ライデン	7.27	10. 5	74	6.7	多	62.4	33.3	100	28.2	微	少	中	下	～
		スズユタカ	8. 2	10.20	75	5.9	中	71.0	36.5	110	30.0	微	無	少	中上	平成1
	晩 播	トモユタカ	8. 5	10.12	57	5.3	少	61.0	37.5	107	28.2	無	微	少	中中	昭和61
		ライデン	8. 4	10.11	63	5.4	多	62.7	35.1	100	28.5	微	少	少	中下	～
		スズユタカ	8.10	10.24	68	4.8	中	65.8	37.1	106	29.0	無	無	中	中上	平成1

標準の開花期及び成熟期はいずれもライデン並の中の早である。主茎長はライデンやシロセンナリより短い。分枝数はライデン並でシロセンナリより多い。倒伏の程度はシロセンナリ並でライデンより少ない。子実収量はライデン及びシロセンナリよりそれぞれ7%及び6%多収であった。紫斑病はライデンより少なく、品質もライデンに優る。

晩播試験においても開花期及び成熟期はライデン並であ

り、子実収量もライデンより5%多収であったが、シロセンナリより3%劣った。紫斑病の発生はライデンより少なく、品質も優った。

3 奨励品種採用県における試験成績

(1) 宮城県

宮城県農業センターの標準と晩播の試験成績は表1の中

段に示した。

標播における開花期はタンレイ及びコケシジロよりそれぞれ3日及び1日早く、成熟期はタンレイ及びコケシジロよりそれぞれ10日及び6日早い中生の早である。主茎長はタンレイやコケシジロより短い。倒伏の程度はコケシジロより少なく、タンレイよりは多い。子実収量はタンレイより9%多収を示したがコケシジロより7%劣った。紫斑病及び褐斑粒の発生はタンレイ並であった。品質はタンレイやコケシジロに優る。

晩播における子実収量はタンレイやコケシジロよりそれぞれ15%及び14%優った。紫斑病及び裂皮の発生はタンレイやコケシジロより少ない。品質もタンレイやコケシジロより優った。

(2) 山形県

山形県農試の標播と晩播の試験成績は表1の下段に示した。

標播における開花期及び成熟期はライデン並の中生の早である。主茎長はライデンより短く、倒伏の程度はライデンより少ない。子実収量はライデンより4%多収であった。褐斑粒及び裂皮粒の発生はライデンより少なく、品質はライデンに優る。

晩播における子実収量はライデンより7%優った。褐斑粒の発生はライデンより少なく、裂皮粒の発生はライデン並で、スズユタカより少ない。品質はライデンより優った。

4 主要病虫害抵抗性

(1) SMV抵抗性

SMVの病原系統A、Bにはライデン同様に抵抗性を有し、C系統についてはライデンが抵抗性を持たないのに対して、不完全な抵抗性を有する。従って、ライデンに比べて、褐斑粒の発生は少ない。

(2) ダイズシストセンチュウ抵抗性

栃木県農試黒磯分場及び北海道立十勝農業試験場におけるシストセンチュウの検定結果はいずれもネマシラズ並の抵抗性で強と判定された。

5 子実成分と豆腐の加工適性

(1) 子実成分

粗蛋白含量、粗脂肪含量ともにライデンやタンレイ並の中に分類される。

(2) 豆腐の加工適性

東北農試作物開発部成分育種法研究室で行った試験結果は、豆乳の抽出率はライデンやシロセンナリと変らなかったが、豆乳中の固形分含有率は両者より高く、豆腐の硬さも硬いことなどから、豆腐の加工適性は両者より優れる。

6 ま と め

宮城及び山形両県においては麦・大豆2年3作体系に用いる早熟な品種が望まれていたが、トモユタカは中生の早であることから麦の前作になり、輪作が組みやすい。倒伏抵抗性はライデンやコケシジロに優り、機械による収穫が可能である。子実収量は標播及び晩播ともにライデンやタンレイより多収を示した。SMVにはライデンよりやや強く、強の抵抗性を有する。ダイズシストセンチュウにはネマシラズ並の抵抗性を有し、紫斑病の発生はシロセンナリやスズユタカ並の少である。黒痘病には罹病性である。裂皮粒の発生が少ないことからライデンより品質は良い。豆腐の加工適性はライデンやシロセンナリより高い。

栽培上の注意事項は①早熟であることから、地上部生育量を確保するためには密植して増収を図ると良い。②ダイズモザイクウイルスの多発地ではアブラムシの防除に努める。